

羊たちのつぶやき

牟田会長'S VOICE



新年あけましておめでとうございませう。昨年は会員の皆様には沢山の参加を頂き本当にありがとうございました。委員会所属の羊たちもよく頑張っていました。今年も羊たちのつぶやきをよろしくお願いいたします。

スタート時に掲げましたメンバー交流は順調に進んでいると思います。事務局移転など事務局新活用にも今年は動いてみたと思っています。

今年の干支は「未」「シーブの年」です！創立35年の年でもあります。

みなさん仲良くたぐり集まるのではなくシーブクラブの活動を通じて研鑽の場となるよう大いに活用して参りましょう！

植物の事も一言(笑)
新年です、おめでたい植物と言えは、「松竹梅」です。松

は冬でも青々とし枯れないので不老長寿の象徴、竹はまっすぐ伸びしかり根を張ることから平安、繁栄、梅は、厳寒の冬に香りのよい花を咲かせ春を告げるから気高きや長寿の象徴とされ縁起物として平安時代から飾られてきました。

促成栽培で花も野菜も現代は何でも季節を問わず手に入り、何が旬か判らなくなっています。寒いこの時期、庭の「おめでたい植物達」を見直してください。みなさん今年もよろしくお願います！

2月24日(火) 18時30分
サンルートホテルにてディベート例会を行います。

議題は「過去の恋人の写真や動画、保存？削除？」

保存派：角田、川田、浜村。
削除派：村上、関戸、山口(貴)の各氏。

次回例会は… 「過去の恋人の写真や動画、保存？削除？」



会告 あたたかい雰囲気ですり上がった家族例会

久しぶりにクリスマス家族例会に出席しましたが、参加人数の多さと会場の盛り上がりには驚きました。メンバーの家族に対する思いやりの深さにも感服いたしました。また、私と同世代のメンバーがお孫さんへのやさしい接し方も印象に残りました。

私も最高のおめかしをしようと新調した蝶ネクタイをつけてのぞみました。それを見たHさんが、どうしてもその蝶ネクタイが欲しいとおっしゃったので喜んで差し上げました。これもシーブクラブならではの仲間意識の発露だったと思います。

会はいろいろな参加者の気持ちを尊重したプログラムが目白押しで最後まで楽しめました。池本委員長と総務委員会の皆様ご苦労さまでした。(松本智)

※裏面に写真掲載

恋愛観という個別の考えをいかに一般的な理論に昇華できるか？逆を言うと、理論を語りつつも個人の恋愛観が透けて見えたりしておもしろい議論になると思っています。

ディベーター達を応援する意味でも多くのメンバーに出席していただきたいと思えます。



羊たちのつぶやき

こだわりの一冊・一曲

『水』にまつわる二つのピアノ曲 渡部 誠

私はクラシック曲やピアノ曲に明るい人間ではないが、私が知っているごくわずかな曲の中からお気に入りの二曲を紹介したいと思う。お気に入りの作曲家二人と言った方が正しいかもしれない。一人はモーリス・ラヴェル、もう一人はクロード・ドビュッシー。同じ時代を生きた同じフランス人作曲家である。そして今回紹介するのはどちらも『水』にまつわる曲だ。

まず1曲目は、モーリス・ラヴェルの『水の戯れ』。ラヴェルと聞いて真っ先にイメージされる曲は『ボレロ』かもしれない(曲名でピンとこなくてもみなさん必ず聴いたことがあります)、自分の言葉で形容する語彙力がないので他人の言葉をそのまま借りると、この『水の戯れ』は「水の運動と様態を描いてこれほど見事な作品はあるまい」と評される名曲だ。目を閉じて聴いていると、水が主人公の、まるで映画を見ているかのような錯覚さえ覚える。ピアノという楽器でこんなにも世界観を表現できるのかと衝撃を受けた曲である。

もう1曲はクロード・ドビュッシーの『映像 第1集』より『水の反映』。ラヴェルの『水の戯れ』が水そのものの動きを表現しているのに対し、『水の反映』は水面のゆらぎとそこに反射する光(映像)を表現している。水をテーマとしたドビュッシーのピアノ曲の中では最も有名な曲と言われている。静かで優しく美しく、彼の曲としてあまりにも有名な『月の光』と同様に、聴く者の脳裏に情景を思い浮かべさせてくれる名曲だ。

能書きが長くなってしまったが、どちらも疲れた心を洗い流してくれる癒しの曲。難しく考えることなく聴いてみて欲しい。どちらもYouTubeで聴くことができます。



◆総務親睦委員会

日時 1月15日
場所 事務局

① 1月例会担当の件
慶祝例会内容についての打合せをおこなっていました。

② 次回委員会の件
「新年会」2月27日(金) 場所未定

③ 3月例会担当の件
「漢の料理」ダッチオーブンでチキンを丸ごと&ピザ場所はトモハウス「ギャラリー海からの風」を企画以上、ミサロソンのハンバーガーを頼張りながら、検討いたしました。

※今夜、新アトラクション、「クレイジー・むた・バンド」
遂にデビュー！昭和の名曲に、乞うご期待。いっね！

◆佐世保三ーカル委員会

2月のディベート例会「過去の恋人の写真、保存？削除？」について、保存する派、削除する派に分かれて委員会を行いました(1月14日・1月15日)。ディベートとは何かという勉強から初め、立論、反論、結論などの草案を話し合いました。

◆福祉とグルメの委員会

日時 1月13日(火) 19時
場所 水月

1月の委員会は2月委員会の打合せの後、新年会を開催しました。今回は委員会メンバー17名中12名の参加でした。平岩会員の計らいで、非常に豪華なコースを堪能させていただきました。残念ながら、食べるのに夢中で写真を撮るのを忘れてました。二次会も全員参加で相変わらず和気あいあいとした時間を過ごすことができました。

2月の委員会については「職場のメンタルヘルス対策」についての勉強会の予定です。日程等決まり次第お知らせしますのでぜひご参加のほどよろしくお願い申し上げます。

編集後記

昨年、家族会から一週間後の12月27日に無事長女が生まれました。いろいろとお騒がせいたしました。ありがとうございました。ありがとうございました。(繁)

シンデレラ城に立体画像を映したプロジェクトがマッピング。凹凸のある建物にまるで登場人物がそこにいるかのように映し出されていた。長い年月をかけて研究してこられたであろうことが、そして完成した時のスタッフの歓喜さえ、あの圧巻の映像から伝わってきた。以前の私なら素敵！と感動していただけた。だが、これを作った人は？と考えられるようになったのもシーブのおかげだと思ふ。(A)

新温泉掘り当てた(株)長崎地研

村山さんの会社長崎地研が「野母崎海の健康村」で新温泉を掘り当てました。温泉にたっぷりながら軍艦島を眺めることができます。

新温泉掘り当てた！

野母崎海の健康村(市提供)

長崎市の外郭団体が運営する宿泊施設「野母崎海の健康村」(同市野母崎町)から新たに温泉が湧き出した。世界遺産登録を目指している端島(軍艦島)を眺める温泉施設として、市も「地域の交流拠点」と期待。来年1月6日から利用できる予定という。

施設には既に温泉があったが、開館当初比べ湯量減った。このため新たな湯を求め、5月から掘削作業をした。市によると、温泉は11月5日に湧き出した。湯量に効果が見込めるといっては毎分約160リットル。施設は療養泉としてのおよそ4倍。泉質は売れたい考え。現在天然の炭酸水素温泉で冷配管工事などを進めている。酸性や軽いせんそくなど。

施設から海側を望むと、2015年の世界文化遺産登録を目指す「明治日本の産業革命遺産」の構成資産「軍艦島」があり、浴場からも眺めることができる。市は「軍艦島を満喫できる唯一の温泉施設」として地域の交流拠点にしたい。現在年間約8万人の入浴者が1割程度増えれば1と期待している。(山下陽平)

地域活性の「効能」も期待
新年6日から利用可



おっ!?ずいぶんおにいちゃんになっとる!



も〜素敵すぎるショット!



智さん、くだんの蝶ネクタイはこれですね!
いつもながらオシャレ〜!



ザ・愛情表現!
(ですよね?)



佐世保市フィンランド町からやってきた
サンタさんとトナカイさんと一緒にパシャリ。
筒井さんの腕には小っちゃい筒井さんが!



お孫ちゃんを抱いてもカッコイイ西辻さん
しかし、お孫ちゃんは泣いております



オホン…え〜左の方、
写っておりますよ



お孫ちゃんがお人形さんみたい!カワイイ〜



子供たちの笑顔が一番ですね

先日の家族例会で池本さんが「この席はチョンガラのグループ席だね。」と言ったら隣に座っていた浜村さんが「チョンガラって何ですか?九州の方言ですか?」と尋ねられた。全国的に使われていると思っていた僕はびっくりした。後日調べてみると韓国語由来の言葉でれっきとした日本語ではあったが、ある辞書では「死語」と書かれていて、30代以下の世代には説明が必要との記述だった。浜村さんは30代だからなじみがない単語だったのかもしれない。

ところで標準語を使うより、方言を使った方がしっくりとなじむという場面がある。へりくつばかり言う若手記者に「がんとぐち(口)叩く」と怒鳴った報道部長がいたが、方言は多彩な感情表現が満載だ。「しこぶる(醜振る)」「きゃーぶり」など実際使うことはないが、知っているだけでわくわくする。

東京支社勤務の時は支社員全員が「長崎ブランド」を背負って仕事をしていたので言葉も長崎弁を押し通した。電通の人に「忙しすぎて、だんじやなかさ。」とやや確信的に使ってみた相手は鼻白んでいた。

当時はなかにし礼の小説「長崎ぶら節」が売れていたもので、「長崎の人は、あの本と同じ話し方をするんですね。」と妙に感心されたりした。本の中で「おまえ」のことを「おうち」と言っていたが、果たして実際に使っている人がいるのだろうか?(丸山辺りで使われていたのかもしれない。)

方言は貴重な文化遺産

方言考

山田繁生 Yamada Shigeo

